診療報酬制度は看護人材の賃金構造に影響するのか

同志社大学　技術・企業・国際競争力研究センター

特別研究員　　宮﨑　悟

要旨

本稿では診療報酬制度に含まれるインセンティブのうち、特に病院の入院基本料部分を中心に取り上げ、このインセンティブが看護人材配置のような病院を取り巻く環境に効果を持つか、そして看護人材の賃金構造に対して効果を持つかについて分析した。これと同時に、看護人材に対する需給バランスが賃金構造に効果を持つかについても分析した。なお、本稿の賃金関数分析においては、統計法の規定を利用して得られた厚生労働省「賃金構造基本統計調査」による個票データを用いた。

まず賃金分析に先立って、マクロレベルでの近年の病院を取り巻く環境変化を見ると、診療報酬制度を通じた政策的な誘導と合致する変化が見られ、診療報酬制度は病院を取り巻く環境変化を促す原動力になっていると捉えることができる。

次に、賃金関数分析の結果から、看護人材への需給バランスによる賃金構造への効果を考えると、労働への相対的に需要が高まることによって賃金水準が上昇していた。すなわち、一般的な職種における労働需給と賃金構造との関係性が看護人材においても見られることが示唆された。

また、賃金関数分析の結果を総合的に見る限り、診療報酬制度は看護人材の賃金構造に対して影響するものと考えられる。一部で総人件費による予算制約からの効果と相殺されたケースもあったが、概ね診療報酬制度のインセンティブに沿って賃金水準が押し上げられており、制度的なインセンティブによる効果が確認された。このことから、診療報酬制度は病院を取り巻く環境に影響するとともに、看護人材の賃金構造にも影響するようなインセンティブとなることが示唆された。